

## 長崎県漁連会長賞

ながさき水産業大賞「魅力ある経営体部門（経営強化の部）」長崎県漁業協同組合連合会長賞を、郷ノ浦町漁業協同組合自営定置が受賞しました。

郷ノ浦町漁協自営定置は新規箱網を導入したことにより、漁獲能力の向上とメンテナンスの作業時間削減による操業の合理化を図ることで安定経営を実現しました。さらに、未利用魚であった漁獲物は、地元の養殖業者や延縄漁業者への餌として販売し、高品質の漁獲物は地元加工業者へ提供して売上を伸ばすなど、島内の業者と連携して水揚金額の底上げを図りました。これらの効果を従業員への賃金改定、休日増加、労働時間削減にまで波及させ、雇用条件の改善を行いました。また、定置網を利用した食害魚のイスズミやアイゴの駆除にも取り組んでいます。

漁業就業者の減少が進むなか、雇用条件改善による魅力的な雇用の場の創出により、離島地域の重要な雇用の受け皿である定置網漁業の将来にわたる雇用の確保、技術の伝承に努めている点、吉岐市内の磯焼け対策にも貢献している点が高く評価され、今回の受賞に至りました。



上：自営定置の皆さん、下：新規導入の箱網

## 運営委員会賞（特別賞）

ながさき水産業大賞「魅力ある漁村地域部門」特別賞を、吉岐東部漁業協同組合一本釣り組合さわら「極」部会が受賞しました。

さわら「極」部会は、漁協の主要魚種であるサワラをブランド化するために平成25年1月に設立しました。高品質のサワラを市場に出荷するため、魚市場や仲買業者に指導を受けながら、漁獲後のサワラの鮮度管理ガイドラインを作成し、そのガイドラインに沿ってグループの一人ひとりが漁獲から出荷まで、漁獲物の品質管理を徹底する取組を開始し、厳選した良質なサワラは『吉岐さわら「極」』として出荷することで、サワラの単価向上を実現しました。さらに、『吉岐さわら「極」』の継続した品質向上のため、出荷毎に魚市場や仲買業者から評価を受け、その結果をもとにガイドラインの更新に取り組み、流通先と連携しながらブランドを育成しています。

また、部会発足以降、吉岐島外からの移住者も含む4名の漁業就業者の研修を受け入れ、すでに研修を終了した2名は独立・定着しており、地域の漁業後継者確保・育成にも貢献しています。

これらの取組が高く評価され、今回の受賞に至りました。



上：ブランド化したサワラ、下：部会の皆さん